

平成 27 年度岡山大学学位記等授与式

式 辞

本日ここに、ご来賓の方々、並びに多数のご家族の皆様のご臨席を賜り、平成 27 年度の岡山大学学位記等授与式を執り行いますことは、岡山大学にとりましては大変大きな喜びであります。

また、卒業生、並びに修了生諸君が、岡山大学の美しいキャンパスのもとで、勉学と研究に打ち込み、本日、学位記を取得されましたこと、岡山大学学長として深く敬意を表するものであります。さらに、ご家族の皆様、さまざまな形でご支援をいただきました関係者の皆様に対しまして、岡山大学学長として、改めて心より敬意とお喜びを申し上げます。

本年度の岡山大学の学部等卒業生は、2,340 名、大学院修了生 900 名、総勢 3,240 名であります。また 13 カ国、88 名の海外留学生が卒業・修了を迎えられました。岡山大学の名のもとに、3200 名を越す優秀な学生が知を育み、将来において日本を支え、世界をリードするであろう、優れた人材を社会に送り出すことができたことは、学長として大きな誇りであります。

私自身も岡山大学卒業生の一人であり、岡山大学を卒業したことに大きな誇りを持っております。本日より皆さんも、岡山大学卒業生であります。皆さんが、岡山大学全学同窓会 また国際 Alumni の仲間に加わること、ここから歓迎をいたします。そして Alumni の同胞として、これからの岡山大学の発展にも貢献していただきたいと、心より期待しています。

皆さんは明日から、社会のさまざまな分野で、それぞれの知性、専門知識を生かして活躍されるわけですが、今日という日に、今一度、母校の素晴らしい歴史と伝統を振り返り、自らが岡山大学を卒業生したことに誇りを感じていただきたいと思います。

岡山大学の礎は、今から約 150 年前にさかのぼります。江戸から明治に、時代が急激に転換する中、岡山大学の起点である岡山藩医学館が明治 3 年 1870 年に設立されました。私たちは、これをもって岡山大学の起点とみなしています。その医学館設立の中心を担った人物たちこそ、緒方洪庵の適塾の中心を担った生徒たちでした。

備中、今の岡山市足守藩に生まれた緒方洪庵は、長じて長崎、大阪、江戸で蘭

学を学び、大阪に適塾を開き、開塾 25 年間で入門者の総数は 3 千人と言われ、当時の日本を担う多くの人材を育てました。慶応大学を開いた福沢諭吉はその第 10 代目塾頭でした。この適塾の塾生のうち、山口に次ぐ多くの塾生を輩出したのが岡山でした。

緒方洪庵は、当時猛威を振るっていた天然痘の予防を図る種痘施設の設立に深く関わり、大阪大学医学部は、1858 年、除痘館が官許になった年をもって大学の起点とし、東京大学医学部は、お玉が池種痘所の設立をもって大学の始まりとしています。しかしながら、この日本を代表する二つの大学起源となった、天然痘の予防としての牛痘種痘法に基づく除痘館は、岡山の足守藩においては、その 8 年前、1850 年に緒方洪庵によって設立されていました。

私が皆さんに伝えたいことは、大学の起源の年代ではありません。幕末期、社会的にも政治的にも騒然とし、開国派、攘夷派が激しく抗争する中で、天然痘やコレラの流行を直視した若き医師たちが適塾に結集し、多くの人々の命を救うために、蘭学研究に打ち込み、医療、今日でいう公衆衛生に全力を傾注していたということです。岡山大学の創設の起点が、これらの人々に担われたことを心に留めておいていただきたいと思います。

その岡山が生んだ緒方洪庵の教育の精神をもっともよく伝えている一文を紹介します。それは、19 世紀中葉のドイツ・ベルリン大学教授フーフランドの内科学教科書 *Enchiridion Medicum* (エンキリディオ・メディクム) のオランダ語訳を、さらに緒方洪庵が日本語に訳した「扶氏経験遺訓」の中でつけた付録「扶氏医戒之略」12 か条からなる、第 1 条にあります。

「医の世に生活するは、人の為のみ、己が為にあらず ということとその業の本旨とす。安逸を思わず、名利を顧みず、ただ己を捨てて人を救わんことを願うべし。」

この言葉は、ただ医学の分野について述べられたわけではありません。当時の蘭学において、医学は科学 Science の一部であり、適塾からは、あらゆる分野の指導者が育っていきました。皆さんが大学で学んだすべての分野、専門知識は、自分の為のみ使うのではなく、人の為、つまり世のために用いることを常とし、努力を惜しまず、自身の名誉を求めず、人を救う技として極めよ、ということでもあります。

私たちは、緒方洪庵とその弟子たちが活躍した時代から 150 年、岡山大学と同じ歴史を経た現在に生きています。この 150 年間、私たちの先人たちの努力

によって、日本は、アジアの中で唯一先進国入りし、科学技術の力量においても、唯一、ノーベル賞を獲得しているアジアでは飛びぬけた水準を維持しています。皆さん自身も、この岡山大学の勉学・研究を通じて、日本の科学技術の水準の高さ・広さを感じたことと思います。私たちは、この先人たちの努力を糧として、さらに努力を重ね、次の世代に引き継ぐ義務があります。

今日、生物を含めた超微細な物質の量子力学、分子生物学、宇宙空間の観測技術の長足の進歩、人工知能の驚異的発展、自動翻訳機、自動運転の高度な技術、これらの技術によって、この先20年ほどで、今ある職業の多くはロボットに置き換わり、職種の半分は無くなると言われております。iPS細胞はじめとする再生医療、移植医療など医療技術の進化も驚くべき速度で進んでいますし、間違いなく科学技術の大いなる進展は人類の未来を輝かしいものにすることでしょう。岡山大学も、皆さんと共にその一翼を担っていると確信をしております。

しかしながら、他方で、世界の状況は100年前に回帰したとも思われます。第1次世界大戦の前後のように、世界は無秩序化し、国家間の対立、宗教間の対立、EUにおけるシリア難民の激増、パリの同時テロ、さらに先週のブリュッセルのテロ、いまだ冷戦の遺物と思わせる朝鮮半島情勢、先進国の貧富の格差の拡大、それからくるのであろうか、超大国アメリカ大統領選挙の不安感。

私たち日本の生活もこの世界の趨勢に無縁ではられません。日本社会もまた未曾有の大きな危機に直面しています。少子高齢化を伴う、人口減少。長引く経済の不安、5年前の東北大震災とそれに伴う福島原発事故は、私たちの自然に対する無力を如実に示し、いまだその傷跡から脱しきれません。

緒方洪庵の適塾は適々斎塾ともいわれ、「適々斎」という洪庵の号から由来しています。中国の古典『莊子』の文章から採られたその言葉「自ら其の適(てき)を適(てき)とする」の意味は、「自らの心の赴くところを楽しみとして味わうこと」と解されます。つまり、他者に奉仕すること自体をも、自らの心の楽しみとする生活です。洪庵の生活は、塾での講義や、種痘、コレラの予防活動で多忙を極め、深夜まで患者の診察記録を残して、激職の中、53歳の若さで亡くなります。

それでも、適塾の雰囲気は、明るく伸びやかなものであり、洪庵と生徒たちの間で交わされた話題は、人文学から自然科学全般に及ぶものでありました。洪庵自身も和歌をたしなむ風流人でもありました。岡山大学の創設を担った先達者のひとりとして、緒方洪庵のような人物を持ったことを大きな誇りしたいと思います。

そして、緒方洪庵の言葉を思い起こしてください。

「自らが得た専門知識を、人の為に用いよ、そのうえで、その業を自らの生活の

楽しみにせよ。」

今日は、あなた方の人生が、新たに大きく変化が始まる日でもあります。皆さんの前途は、洋々として輝いています。また世界は皆さんの若い力に大いに期待しています。しかしいつも人生は順風満帆ではありません。

あなたが正しいと思う事が、あなた方の選択であり、最大の努力すること、貴方の国を変え、貴方の人生の輝きを増していきます。

これから先、今日の日に戻ることはできません。明日が有るのみです。

いつの瞬間も、「過去に何をしたかが大切ではなく、これから何をするか、人の輝きを決める」と信じています。

昨日より今日、先月より今月、去年より今年をより良いものに変化させるように努力を惜しまず、そして、可能な限り、毎日を楽しいものにする・・・、毎日の楽しさが起こる変化を大きくし、常に前向きな努力が良い選択を生み、良い結果と成功を導くと信じております。緒方洪庵の教えに通ずるものであります。

最後に、

岡山大学も、これから大きな変化を遂げていきます。コミュニケーション・マークのOUは、世界に開いた岡山大学の扉を表しています。世界に扉を開いた、岡山大学の美しいキャンパスは、年齢を重ねつつ、輝きを増した皆さんが、今日という日を思い起こしながら、再びこのキャンパスに戻ってくることを待っています。

平成 28 年 3 月 25 日

国立大学法人岡山大学長

森 田 潔